

5

北海道ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 豊嶋 崇徳

北海道大学病院 血液内科 教授

研究要旨

北海道ブロック内の患者動向や各拠点病院の診療実績、活動状況を分析した。また、北海道ブロック内でのHIV診療に関する研修会の開催によって、北海道内のHIVの診療水準の向上を図った。北海道ブロック内の新規HIV感染者数は3年連続で低下しているが、50歳以上ではAIDS発症率が50%以上となっており、ターゲットをしぼった対策も必要と考えられた。保健所では梅毒の同時検査を導入して検査件数はやや増加したが、限定的な増加であり、さらなる対策が必要と考えられた。北海道では、いまだに一般医療機関において診療拒否や差別的な対応と思われる事例が散見されている。今後、HIV感染症に関する正しい知識の啓発活動をさらに強化する必要がある。本年度は北海道内の19施設での出張研修を行い、歯科・透析・福祉サービスの各ネットワーク拡大に向けた取り組みも行った。次年度以降も研修会の開催や行政との連携によってHIV医療体制の整備を進めていく予定である。

A. 研究目的

北海道ブロックのHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染者の早期発見・受け入れ施設の拡大を目的とした。

B. 研究方法

北海道ブロック内の拠点病院へアンケート調査を行い、患者動向、診療実績、活動状況を分析した。また、ブロック拠点病院に中核拠点病院を加えた体制でHIV診療に関する研修会を開催し、各職種における診療水準の向上を図った。なお、これらの調査及び研修会の一部は、北海道との共同で行った。さらに、ブロック拠点病院内における出前研修や院外へ出向く出張研修を通して北海道におけるHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染症の早期発見・偏見の解消を図った。出張研修では、研修前後にHIV診療に関するアンケート調査を行い、研修の効果を評価した。また、行政とも連携して、受け入れ施設拡大を目的とした各診療ネットワーク（歯科・透析・福祉サービス）の充実を図った。

（倫理面への配慮）

アンケート調査や研修会でのデータ解析、症例呈示においては、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

C. 研究結果

1. 北海道ブロックの患者動向および検査件数

2018年12月末現在の北海道ブロックにおける新規のHIV/AIDS患者数を図1に、累計の年齢区分別患者数を図2に示した。新規のHIV感染者は21名、AIDS発症者は8名、計29名であった。累計の年齢区分では、男女とも30歳代が最も多かった。また50歳以上の患者においては、AIDS発症者が50%以上を占めていた。北海道の保健所等におけるHIV抗体検査件数を図3に示す。2018年の検査件数は2,749件であった。

2. 北海道ブロック拠点病院および北海道大学病院の診療実績と活動状況

北海道の各拠点病院のHIV/AIDS患者の診療状況を表1に示した。現在患者がいない施設が4施設あったが、これまでHIV/AIDS患者の診療経験が全く

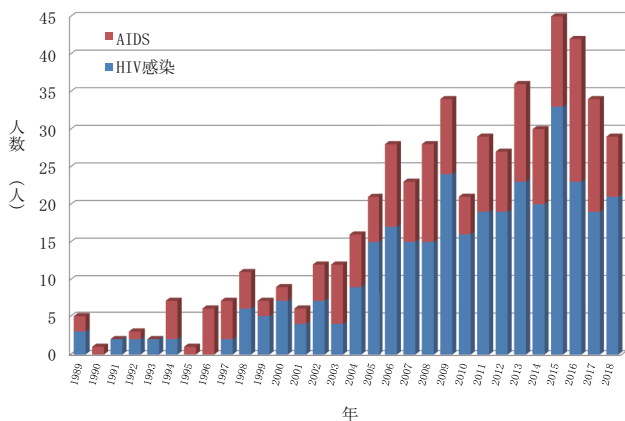


図1 北海道におけるHIV・AIDSの新規患者数

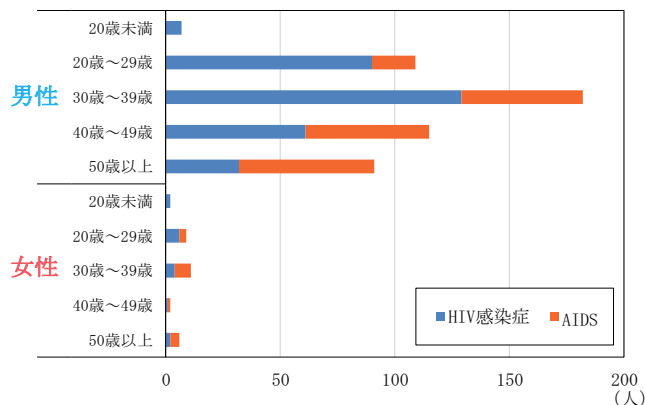


図2 北海道における年齢区分別患者数（累計）

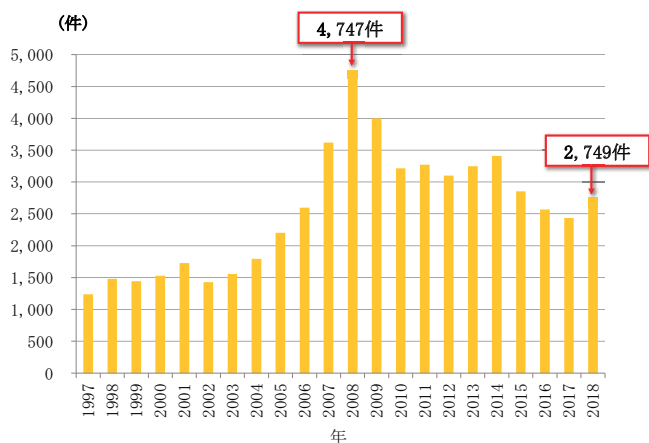


図3 北海道の保健所等におけるHIV抗体検査件数

表1 北海道ブロックの拠点病院別患者数

	18/17/16 (年度)	累計	現在数		18/17/16 (年度)	累計	現在数
北海道大学病院	9/15/22	448	297	【道北・オホーツク地区】			
				旭川医大病院	1/5/5	34	22
				旭川医療センター	0/0/0	3	0
				市立旭川病院	1/6/0	18	14
				旭川赤十字病院	0/0/0	2	0
				旭川厚生病院	0/0/0	3	1
【道央・道南地区】				北見赤十字病院	2/0/2	16	5
札幌医大病院	7/10/7	114	75	広域紋別病院	0/0/0	3	3
市立札幌病院	1/7/4	37	25				
北海道がんセンター	0/0/0	4	2	【道東地区】			
北海道医療センター	0/0/0	6	0	釧路労災病院	1/0/2	37	26
市立小樽病院	0/0/0	5	2	市立釧路病院	0/0/0	4	3
市立函館病院	1/2/3	30	16	釧路赤十字病院	0/1/0	4	3
道立江差病院	0/0/0	0	0	帯広厚生病院	1/3/7	41	26

2018年9月末現在

ない施設は1施設のみであった。地域別患者数は、これまで同様、道央・道南地区が80.2%と最も多く、道東地区が11.2%、道北・オホーツク地区が8.7%であった。また、道内全体の57.1%の患者が北海道大学病院に通院していた。

北海道大学病院の活動状況としては、後述する北海道ブロックの研修会を主催または各地域の研修会の支援を行った。

3. 北海道ブロック内の研修会等の開催状況

【北海道ブロック内研修会の開催】

- 平成30年度北海道HIV/AIDS医療者研修会、札幌、2018年6月16日
- 道東地区研修会、釧路、2018年6月9日
- 道央地区研修会、札幌、2018年10月4日
- 道北・オホーツク地区研修会、旭川、2018年11月10日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（カウンセラー）、札幌、2018年11月10日
- 北海道HIV/AIDS歯科医療研修会

苫小牧、2018年8月26日

札幌、2019年2月17日

【北海道大学病院内研修会】

- 北海道大学病院HIV学習会
第23回：2018年5月28日
- 院内出前研修
内科II、11-2病棟、検査・輸血部

【北海道大学病院 出張研修（図4）】

- 札幌市内：7施設
- 札幌市外：12施設

【北海道HIVネットワーク参加状況】

- 北海道HIV歯科ネットワーク：57施設
- 北海道HIV透析ネットワーク：45施設（図5）
- 北海道HIV福祉サービスネットワーク：635施設（表2）



図4 平成30年度北海道大学病院出張研修

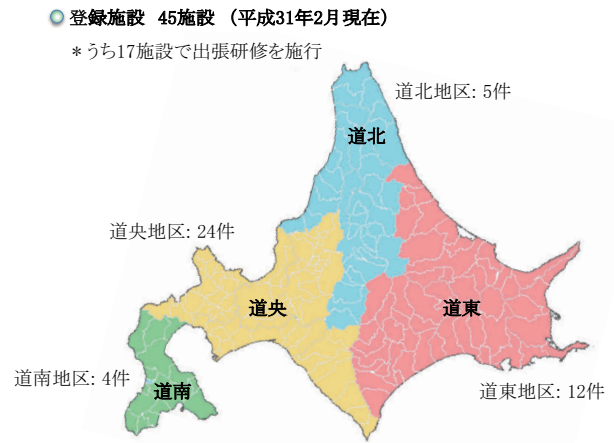
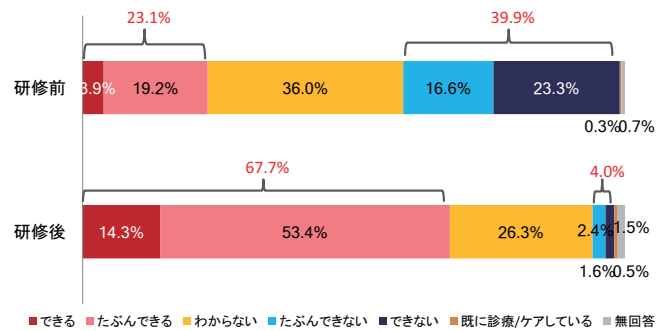


図5 北海道HIV透析ネットワーク

表2 北海道HIV福祉サービスネットワーク登録施設

サービス種別	件数
高齢者領域	
訪問系サービス	189件
通所系サービス	59件
短期入所サービス	15件
小規模多機能型居宅介護サービス・複合型サービス	13件
福祉用具貸与（レンタル）、福祉用具購入、住宅改修	3件
入所・居住系サービス	62件
サービス利用支援（居宅介護支援、介護予防支援）	97件
障がい者領域	
訪問系サービス	40件
日中活動系サービス	44件
入所・居住系サービス	11件
保険外サービス、独自事業、その他	
保険外サービス・独自事業	93件
その他	9件

Q あなた自身、HIV診療・ケアができると思いますか？



期間：平成30年5月～平成31年1月まで

図6 出張研修前後のアンケート調査

4. 出張研修前後のアンケート調査

前記の出張研修の際に、研修前後に参加者へのアンケート調査を行った。図6に示すとおり、「あなた自身、HIV診療・ケアができると思いますか？」という質問に対して、研修前には「できない」「たぶんできない」という否定的な回答が42.6%であり、「できる」「たぶんできる」という肯定的な回答の21.8%を上回っていた。一方、研修後には、否定的な回答が4.6%に激減しており、肯定的な回答は65.2%と増加していた。

D. 考察

北海道ブロックの新規患者数は、過去最多であった2015年の45名をピークに減少傾向が続いており、2018年は29名であった（図1）。AIDS発症率も、2018年のみだと27.6%とこれまでと比較すると低い値であった。しかしながら、2016年から2018年の三年間と2013年から2015年の三年間を比較す

ると、AIDS発症者の占める割合は逆に増加しており、必ずしも北海道において早期発見が進んでいるとは言えないと考えられる。特に40歳以上においては、いまだにAIDS発症でHIV感染症が判明する割合が50%を越えており（図2）、中・高齢者の検査啓発に対する特別な対策が必要と考えられた。また、2008年に4747件とピークだった保健所等におけるHIV抗体検査件数は減少傾向が続いている。2018年は一部の保健所でHIV検査と同時に梅毒検査も無料で行えるようになり、検査件数は2017年よりも増加し2749件であったが（図3）、限定的な上昇であった。今後は、さらに他の性感染症の検査を組み合わせるなど、検査件数のさらなる増加のための対策を行政と併せて考えていくことが重要と考えられた。

北海道内の拠点病院での診療体制は徐々に整ってきたと思われるが（表1）、一般医療機関において診療拒否や差別的な対応と思われる事例が散見され

ている。また今年度、北海道においてHIV陽性者の就職内定取り消しの事例があり大きく報道された。一般医療機関や一般市民の間では、未だにHIV感染症に対する根強い偏見が存在していることが明らかである。世界的にはU=Uを合い言葉にHIV感染者の差別・偏見を撤廃する運動が盛んだが、本邦においても、HIV感染症の正しい知識の啓発による差別・偏見撤廃のための活動を強化する必要があると考えられる。当院では、医療機関や福祉関連施設を対象として出張研修を行っているが(図4)、アンケートの結果(図6)から、正しい知識を得ることによって、大幅に意識が変わることが明らかとなった。実際に、出張研修後にHIV感染者の受け入れやHIV診療ネットワーク登録に至った施設が増えてきている。しかしながら、出張件数をおこなえる数は限られるため、行政との連携やメディアの活用など、別のアプローチも必要と考えられた。

北海道では、HIV感染者の紹介を円滑に進めるために、歯科・透析・福祉サービスに関するHIV診療ネットワークを構築しており(図5、表2)、今年度の各ネットワークの利用実績は、歯科ネットワークは5件、透析ネットワークは1件、福祉サービスネットワークは2件であった。まだ利用数は多くないが、今後HIV感染者の高齢化とともに、需要も増してくると考えられるため、今後もネットワーク拡大を図っていく予定である。

E. 結論

北海道ブロックにおけるHIV診療水準向上のため、出張研修を含む研修会や診療ネットワークを通じて、一定の成果が得られたと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 遠藤知之、センチノ田村恵子、渡部恵子、後藤秀樹、宮下直洋、荒隆英、笠原耕平、橋野聡、豊嶋崇徳: 北海道HIV透析ネットワークの構築とその有効性の検討、日本エイズ学会誌 20: 199-205, 2018

2. 学会発表

- 1) 遠藤知之: 「あらゆる診療科で知っておきたい HIV感染症の早期診断/早期治療の重要性」第28

回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、札幌、2018年6月7-9日

- 2) 遠藤知之、後藤秀樹、荒隆英、吉岡康介、宮下直洋、笠原耕平、橋野聡、豊嶋崇徳: 高感度CRPによるHIV感染者の慢性炎症の評価 第32回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018年12月2日-4日

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし